

子育て世帯負担軽減「学童クラブ昼食」を！ 住宅確保要配慮者の対応が不十分、改善を！



西東京市議会公明党 藤田 美智子(ふじた みちこ)

問 学童クラブの配食弁当試行実施後、保護者・児童・指導員から意見聴取もしていただいた。令和6年夏の本格実施に向けた取組を問う。

答 夏休みに1学童実施し、今後冬休みに3学童で実施する。保護者等の意見を踏まえ、値段、配布の手間などを見直し、夏休み実施と比較検討し事業者を選定したい。春休みにも試行実施を行い、新1年生への対応など課題を整理した上で保護者説明会を行う。利用登録後に、全公営学童クラブで本格実施する。

問 自宅から持参するお弁当の保管に対し再検討を求めてきたが進捗は。

答 直射日光を避け、冷房が当たる涼しい場所での保管など、各学童クラブの状況に応じて対応している。6年夏に向け食中毒予防について現場職員と話し合い、対応を検討する。

問 住宅確保が困難な方への窓口対応が不十分。家賃低廉化の補助制度も機能していない。改善を求む。

答 専用住宅を増やし、理解を得る取組を進める。信頼関係の構築に力を入れ、専用住宅と家賃低廉化を重要な柱とし、住宅確保に努める。

その他の質問

- ◇自治体DX推進
- ◇地球温暖化問題と都市農業



市民の生活と健康を応援するため 効果的な財源の活用を！



西東京市議会公明党 大林 光昭(おおばやし みつあき)

問 物価高騰による市民や市内事業者の負担を軽減するため、様々な経済対策を実施した。効果と課題を検証し、今後の対策に生かすべき。

答 他市の取組も参考にしながら取りまとめる。

問 市議会公明党は、市民の健康づくりに資する政策提案を重ねてきた。取組の成果と課題を問う。

答 保健師が公衆浴場、地域の居場所などに出向き、健康相談などを行った。フレイルチェックなど、自分のフレイル状態に気づき、予防できる環境づくりも進めてきた。健康の取組や成果を本人が認識できる健康アプリ「あるこ」を構築し、第12回健康寿命をのぼそう！アワードでスポーツ庁長官賞を受賞した。

問 公明党は、奨学金返済の負担軽減へ支援制度拡充に取り組んでいる。

市内事業所での人材確保の観点からも、奨学金返済を支援すべき。

答 全国的にも広がっているとの報道がされており、他自治体等の取組事例などを調査研究していく。

問 学校給食費の無償化について、市長として本市での必要性、財源を踏まえた上で判断をすべき。

答 しかるべき時期にしかるべき判断をさせていただきたい。



学校を都市計画の「都市施設」に位置づけよ 自治体DX、業務改善で市民サービス向上を



自由民主党西東京市議団 山田 忠良(やまだ ただよし)

公共施設再編

問 学校を核としたまちづくりを進めるため、都市計画法における都市施設に学校施設を位置づけることを提案する。市の見解は。

答 中学校に多様な世代が集い、交流・活動できるよう整備するために、都市施設に位置づけることを視野に入れて、調査研究を進めている。

自治体DX、業務の見直し

問 国会では、国と地方の業務の見直しが議論されている。定員を増やすことも大切だが、業務の改善、効率化も重要だ。現在の取組は。

答 現行の業務プロセスを根本から検証し、職員が働きながら業務改善に取り組めるよう体制を整える。

コール田無などの利用方法

問 コール田無やこもれびホールでは、原則的に窓口での現金決済のみ

である。振込やキャッシュレス決済の導入を進めるべき。市の見解は。

答 現在、導入5年目を迎える公共施設予約管理システムの課題整理を行っている。電子決済やオンラインユーザー登録も視野に協議を続けていく。

意見 * GovTech東京のシステム共同利用を積極的に活用してほしい。



タクトホームこもれびGRAFAREホール

マイボトル運動を進めることで ペットボトル削減に向けた取組を！



西東京市議会公明党 佐藤 公男(さとう きみお)

問 ペットボトル削減のため、マイボトル運動アプリの活用と給水スポット設置を提案。検討状況は。

答 市内給水スポットのアプリへの登録と公開を進めると共に、マイボトル用給水器の設置を検討する。

農業者所有井戸の水質検査を

問 市内産農産物を守るため、農業者が所有する井戸水のPFAS検査の実施もしくは助成を求める。

答 農業委員会の意見を踏まえ、科学的根拠に基づき慎重に判断する。

市民会館跡地の文化施設

問 市民会館跡地に開設予定の文化施設を、こもれびホールやコール田無と一体的な指定管理者にすることで、広報体制の強化や運営面でのスケールメリットが生まれる。また、コール田無の老朽化した展示備品等の更新を求める。

答 将来的には一体的な指定管理者による管理運営は図りたい。施設の備品については計画的に更新する。

中学校建て替え時に給食室の設置を

問 中学校建て替えの際には給食室を設置し自校方式にするよう訴えてきた。様々な視点で検討をすべき。

答 建て替え期間中にも給食が提供できるように検討する。給食室の暑さ対策についても早急に改善を図る。



小中学校等の特別支援教育について さらなる支援の充実を！



自由民主党西東京市議団 とみなが ゆうじ

問 令和4年の文科省の調査によれば、特別な支援を要する児童生徒が小中学校の通常の学級に8.8%在籍しているとされており、10年前から2.3%増加している。本市では個に応じた指導を行うために様々なタイプの学級等があるが、それでもまだ支援制度の狭間にいる、特に境界知能にある児童生徒が通常の学級に一定数在籍している現状があると考え。本市の小中学校の通常の学級における特別支援教育の現状と、境界知能にある児童生徒への支援体制についての考え方を問う。

答 特別支援教室の開設等による指導の充実に取り組むなど、よりきめ細かな指導がなされるよう個に応じた教育実践を進めているところである。境界知能にある児童生徒は、困難さが表面化しにくいために支援が

行き届かないケースも生じていることから、できる限り学級担任等の大人が児童生徒の表情や言語などから、捉えている困難さをつぶさに把握し、必要な支援を的確に行うことが重要であると認識している。

その他の質問

- ◇物価高騰対策
- ◇公共施設等総合管理計画と学校施設個別施設計画等



西東京ふるさと探究学習について、地域・保護者の理解も得てしっかりと進めるべき



自由民主党西東京市議団 中川 清志(なかがわ きよし)

問 西東京ふるさと探究学習について、どのような成果、実践事例があり、どのような期待をしているのか。

答 子どもたちが地域をテーマに地域の人の関わりや地域資源等を調べることなどを通し、課題解決力やコミュニケーション力を実践的に育むとともに、地域への愛着や地域を誇りに思う心等を養成していくことが狙い。5年度から全ての小中学校の教育課程に位置づけ、各校では子どもたちの実態や地域の特色を生かした創造的で魅力的な教育活動を展開している。例えば小学校では、学習発表会で、全学年で学んできた成果を子どもたちが主体となってまとめ、保護者や地域の皆様に向け発表した。中学校では地元企業の協力を得ながら商品の販売促進活動に取り組むなど、働くことの意味や価値を

プロの指導の下、実践的に学んでおり、その様子が学校ホームページで紹介されている。一人一人が課題意識を持ち、自分ごととして意欲的に探求する姿に、これからの社会を生き抜き、未来を担う資質、能力の一端をかいま見ることができる。

次期教育計画の中において明確に位置づけ、コミュニティスクールの充実を併せて推進していく。



* GovTech東京 東京都が100%出資し、新設した一般財団法人。開発や技術支援などを行う技術の専門家集団として、行政サービスを担う東京都のデジタル部門「デジタルサービス局」と連携し、事業を進める。都庁のDX支援のほか、自治体で共通利用できるツールやシステムの共同調達やデジタル人材派遣などで、都内市区町村のDXを支援する。